

## 【国見町】 校務 DX 計画

国見町においては、校務支援システムとして「デジタル校務」(内田洋行)を導入しており、クラウド環境を活用した校務情報の管理がすでに行われている。これにより、成績処理や出席管理といった主要な校務の効率化が一定程度進んでいるが、なお一部の業務においては紙ベースの運用が継続されており、押印文化や対面・紙での回覧等が残っている状況である。

このような実態を踏まえ、国見町教育委員会では校務の更なる効率化と教職員の働き方改革を推進するため、次の3つの柱を中心に校務DXの取り組みを強化していく。

### 1 ペーパーレス化の加速と押印業務の見直し

校内の会議資料、報告書、通知文等については、順次電子化を進め、共有フォルダやクラウドストレージを活用して配布・保管を行う体制とする。また、決裁や回覧といった承認プロセスも、電子回覧やクラウド上での承認を活用することにより、「回す・待つ」といった非効率な業務の削減を図る。押印については、必要性を精査し、原則として校内文書における押印は廃止する方向で検討を進める。

### 2 連絡・報告・情報共有のデジタル化

教職員間の業務連絡については、これまでの紙ベースから、メールや掲示アプリ等への移行を進めていく。また、日々の出欠確認や健康観察、事務連絡などについても、可能な限りクラウド環境上で完結する体制を整備する。将来的には、校務支援システムと連携可能なデジタル連絡帳の導入についても検討しており、学校・家庭間の連携強化につなげていく。

### 3 校務DXを持続的に進めるための体制整備と教職員の意識改革

各校には「校務DX推進リーダー」を1名任命し、現場主導で改善に取り組む体制を構築する。さらに、文部科学省が提供する「校務DXチェックリスト」を活用して、毎年度自己点検を実施し、取り組みの進捗を可視化していく。また、校内研修では、文書管理、クラウド活用、業務改善といったテーマを扱い、教職員全体のスキル向上と業務の標準化を図る。ICT支援員については、従来の授業支援に加えて、校務分野のデジタル化サポートも担当できるように役割の拡充を図っていく。

なお、現在導入している校務支援システムについては、令和9年度を目途に更新時期を迎えることから、その際には保護者連携機能やモバイル対応などを備えた次世代型のクラ

ウド統合型校務支援システムへの移行を視野に入れて検討を進めていく。選定にあたっては、他自治体の導入状況や利便性、運用コストなどを総合的に評価し、現場の使いやすさを重視した判断を行うこととする。

以上のように、国見町では段階的かつ実現可能な範囲で校務 DX を着実に進め、教職員の負担軽減と教育の質の向上を両立する学校経営の実現を目指していく。